



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



Yet...Joy! Hope! Gratitude!

# 心震えた韓国での叙階式

## 鹿兒島教区の神学生二人が助祭に

一月十日(火)韓国は富川市にある「富川室内体育館」で仁川教区の司祭と助祭の叙階式があり、それぞれ十五人ずつが聖なる位の候補者として式に臨んだ。その中には鹿兒島教区のチョン・アントニオ神学生(四十三歳)とソング・ドミンゴ神学生(四十歳)の二人も助祭候補者として名を連ね、一万人の信徒が参列したとも言われる荘厳なミサで、助祭に上げられた。



10,000人が参列したと言われる叙階式

午後二時から始められた司祭・助祭の叙階式は荘厳なものだった。仁川という一つの教区のものであるにもかかわらず、司祭・助祭の候補者がそれぞれ十五人ずついることも驚きだったが、火曜日という平日にもかかわらず約一万人という信徒が会場に足を運んで

きたからだ。そして式に参列した司祭たちの数は三百人。韓国のカトリック教会の勢いを実感させられる式典となった。会場に入るには予め配布されたチケットが必要だった。そうでないと会場の収容能力を超える信者が詰めかける恐れがあるのだという。会場の一階フロアには見事な祭壇が設置され、その後方の壁には受階者たちの顔写真を刷り込んだ巨大な横断幕が貼られている。一階フロアから目を上げて、祭壇を見下ろす形で設けられている信徒席にも各所に、おそらくは司祭・助祭候補者出身の教会の信徒たちが持ち込んだであろう、やはり顔写真が印刷され

た数メートルもある横断幕が下げられている。そして会場のあちらこちらで大歓声が上がると、それは候補者たちが、駆けつけた信徒たちの席を訪問しているかららしい。参列した信者たちのあるグループは手に手に色鮮やかな風船を持ち、大歓声とともにそれを打ち鳴らす。ミサなど祈りの場での静寂を好む日本人にとってはいささかカルチャーショックでもあった。要するにこの国では「司祭」は、



ドミンゴ(左)とアントニオ

英雄、ヒーローなのだと感じさせられた。そんな韓国から鹿兒島の司祭候補者を三人頂いたのは二〇〇九年のこと。韓国では年齢制限があるため神学校に入ることができなかった青年三人が、僅かな期待をかけて「外国でも司祭になりたい」と鹿兒島教区の門を叩いたのである。そしてその内の二人がまず助祭へとなった。この叙階式を見る限り、文化や風習の違いだけでなく、司祭職への尊敬や司祭の立場、周囲の思いにも日本とはかなりのひらきが感じられ、そのことは彼らにも志願したときから分かったであろうに、それでも司祭職への道へしがみついていたのだ。

だから叙階式の冒頭、助祭候補者として呼びかけに

### 助祭叙階式のお知らせ

日時：2月19日(日)14時  
場所：鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂  
受階者：鈴木康由さん(44歳)

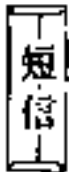


一学。高校卒業後は明治学院大学で七年勤務した経験を持つ。そして、昨年鹿兒島教区の司祭候補

### 韓国の教会を学ぶ 三十六人が叙階式参列

教区からは郡山司教以下三十六人の巡礼団が韓国での叙階式に足を運んだ。十日の叙階式に一人一人ほどの信者が参列したことを考えると三十六人は多い数ではなかったが、それでも鹿兒島市内だけでなく徳之島や奄美大島、薩摩川内市や鹿屋市、指宿市にまで参加者が及んだことを考えると教区

の後、韓国で一つの小教区として認められるほど入所者の多い福祉施設「花村」(コットンネ)を訪れた。また翌十日は叙階式参列前の時間を活用して、一八六六年頃二千人もの信者が首を切られ殉教したと言われる殉教地「切頭山」を訪問し、殉教者を偲ぶなどした。



### 短信

▼神学生、志願者のため  
一月五日(木)午後、教区司祭たちはザビエル教会で「教区出身の神学生や志願者のため」のミサをささげ、この一年の彼らの健やかな成長を祈るとともに、また新たに召命が誕生するように心を合わせた。その後、壮年会主催で神学生らを励ます会もあった。

### 新風

ある先輩司祭が呟きました。「神父さん、おれは今まで突っ走ってきた。いろんな事業をし、その事業継続のためになりふり構わずやって来た。それが神さまのためだね。しかし今になって思うよ。それは六十%でよかったんだよ。あとの力は同僚の神父や信者の思いを共有することに使えばよかった」

### 留まること

とても大切な言葉だと思えます。ややもすれば私たちは自分で作り、自分たちのグループで練ったスケジュールをこなすだけになってしまします。下手をする

ました。そこに救いが訪れました。私も隣人の前で少しだけいいから、自分のスケジュールを横に置き、留まってみたいのです。お聖堂に留まり、隣人の前に留まってこそ、初めて神さまから私たちに留まること、初めは神さまから私

(教区本部・寝占教之)

### わたしの「それでも」

## 私の宝物「直樹」と歩く道②

鴨池教会 角園美津代

教区報五三七号(昨年六月発行)で紹介した角園美津代さんと長男・直樹さん(二十七歳)の歩みを綴るシリーズの第二話。知的障害を持ちながらも聖母幼稚園を卒業した直樹さん、今度は一般の小学校で成長していく。

新年のお慶びを申し上げます。今年もお恵み豊かな一年でありますよう。

さて、いよいよ優しい先生方に恵まれた聖母幼稚園を卒業して、地域の八幡小学校に身を置かねばならない時がやってきました。就学指導の相談にも聖母幼稚園の鴨川先生が同席して下さいました。教育委員会の判断は「とりあえず経過観察」でしたが、幼稚園まで通った児童相談センターの林先生の所へも卒園と同時に駆けなくなりまして、鴨池小の情緒学級に八幡小から週に二回、二時間ずつ通級させて頂けるようをお願いしました。児相の林利栄子先生は、直樹が共生コース専攻科卒業まで毎年運動会に来て下さり、見守って下さいました。

純短の文珠先生には毎週見て頂きながら小学校のスタート。私も先輩お母さんから「役員をした方が直君のためにもいいよ」とアドバイスを受け、直樹が学齢期を終えるまで一年も休まず役員を続けましたが、今思えば、PTAで沢山学び、鍛えもらったと思います。直樹は字もなかなか覚え、数も対比して数え

ることができません。給食も偏食が多くなかなか食べず、担任の西山先生に心配をおかけしました。毎日の日記も一字一言書けて書かせる状態です。字と言葉がつながらず「り」「ん」「ご」と書いても「りんご」の意味には通じませんでした。文珠先生のアドバイスで部屋の物には名称を書いて貼りました。お勉強はまったくついていきませんでした。が、皆を見ながら行動するようにになり、運動会も最後からでしたが走り、「おどるポンポコリン」の遊戯もまわりを見ながら参加していました。

靴がないと裸足で帰ってきたり、色々とドキドキの毎日でしたが一年生が終了しました。毎年、担任の先生方には文珠先生に会ってもらい、直樹の接し方を聞いて頂きました。

直樹が二年生になるときに鴨川先生にお願いして月曜日から金曜日まで、十七時から十九時まで幼稚園でモンテッソーリを学ばせてもらいました。毎日自転車に乗せて送り迎えをしましたが、その時に覚えた地図などは今でも覚えています。少しずつですが、単語と言葉が結びつくようになってきました。鴨川先生と直樹は二時間、関わって頂き、

私は迎えに行った折り時々聞いてもらい優しい先生の話を聞きながら何度涙を流したか数えきれません。直樹は二年生になると学校にも慣れたのかウロウロしたり、顔にひっつき傷を作ったりで落ち着きませんでした。担任の岩切先生は新人ながら体当たりで頑張して下さいました。文珠先生にも色々お聞きしながら...

そんな時クラスのお母さんから「直樹がいたら勉強が遅れる。皆で話し合おう」との意見が岩切先生に寄せられました。指導教諭の梶原先生が「直君のお母さんも頑張っているんだから...」と止めて下さいました。鴨川先生の前でもポロポロ泣き、文珠先生に相談し「直樹は、発達に遅れがあります。いろいろご迷惑をかけますが、どうぞ、私に直接教えて下さい」とPTAのときに皆の前で話しました。ロザリオを握りながら「泉広美先生の「そんなこと気にするな」の励ま

しはとても嬉しかったです。それでも直樹は毎日元気に学校に通いました。三年の担任の今村先生も直樹をしつかり受け入れて下さり、直樹の夕方の幼稚園通いも続きました。弟の大樹も一年生。四年生になるとき鴨川先生が転勤になられ、寂しさで不安で涙が止まりませんでした。あとは故シスター田中孝子先生が引き継いで下さいました。四年生の廣先生、自然に直樹を受け入れて下さり「直樹は迷惑をかけていませんか?」と聞くたび「なんで?まだ手を焼く子がいるのに。何もしてないよ」と笑っていました。PTAなどに行くことがドキドキ心配しなくなったのもその頃からです。四年の目標が「一輪車に乗れるようになるう」でした。夏休み毎日練習して、二学期に乗れるようになったら、クラスの子が職員室に駆け込んできて「先生、直君が一輪車乗れたよ」とその時のクラスメイトはずっと親子共々支えて下さいました。ドッジボールも直樹には当てないと暗黙のルールを作ってくれた。そんなクラスでした。

五年はまた岩切先生、直樹はいろいろ「えっ」と思うようなことをしました。二度目の担任でしたから私はゆとりでした。PTAは執行部にも関わりました。

六年は原口先生、転勤で来られ一年目で直樹の担任でしたので大変でした。しょうが、一生懸命で、写し書きも考えて下さいました。運動会のクラス対抗リレー、子どもたちが直樹の前後に速い子を入れてリレーゾーンを短くしバトンを渡すように考えました。いよいよ当日、直樹が抜か

区別する聖書、ギリシア語では、この「鍵」は複数形で表現されています。このことから、どうして天の国の鍵は二本ないしはそれ以上あるのか、という疑問が自ずと生じるものです。聖書を読むとき、「なぜ?」「という問いと「なぜなら」という自分なりの答えを探すことは黙想にもなり得ることです。

では、小学生の子どもたちにこの質問をしたときの答えをいくつか紹介しましょう。ペトロはおつちよこちよいだから失くしてもいいように同じ鍵を何本も授けた。イエス様はペトロに地獄にいる人を天国に招き入れる使命も与えられた。天の国と地獄の門の鍵、二本を渡した。一人ひとりの生き方が違うように天の国に入る門はその人の数だけあるから、人間の数だけ鍵を渡した。天の国の鍵は魔法の鍵のようなものでどんな扉も開けられるは

に出会うことがなかったら直樹と生きて来られなかったかも...と今本当に思います。文珠先生は直樹が六年になるとき、山梨看護大学に行かれました。その時も不安で涙、涙でした。でも後を永家先生、今村先生が引き継いで下さいました。文珠先生も毎年鹿兒島に来られ、今でも直樹を見ていて下さいます。直樹のまわりの先生方、保護者、皆に支えられ小学校も卒業することができました。いよいよ中学校...。また次にお話できましたら

ざだから、一本の鍵を渡した。概ね以上のことが挙げられます。さて、教皇様の紋章には金と銀の鍵が描かれています。教皇様はどのようなお考えでこの紋章を使われているのでしょうか。因みに、イエス様は律法の専門家たちを「知識の鍵を取り上げ、自分が入らないばかりか、入ろうとする人々をも妨げてきた」と責めました(ルカ11・52)。このときの「鍵」は単数形、つまり、一本の鍵として表現されています。ここでも「なぜ一本の鍵なのか」という疑問をもってもらいたいものです。実はこの箇所はマタイにも描かれていますが(マタイ23・13)。四つの福音書の中で同じ内容をもった箇所があるのなら、それぞれを比較してみると聖書の理解がぐっと深まります。普段は分かったつもりで読んでいた箇所でも少し視点を変えると意外な発見があるものなのです。そして、これが聖書を読む醍醐味かもしれません。

スーさんの「やさしいみことば」⑨

天国の鍵

文芸

鹿兒島市 徳永ノブ子

純心学園 山頭 信子

霧島市 政 ノブ子

愛光園 春山マリ子

冬寒し人のハートは どうだろう

出水市 沖 弘子

十字架に日の当たりたる淑気かな

鹿兒島純心 川上 和

初日明け雲染め分けし桜島

鹿兒島純心 川上 和

影落す三陸沖に初日の出愛の絆の春光やさし

野辺に咲く草花摘みし我れなれど言葉にならぬ自然の不思議

奄美市 林 常広

睦月空初稽古する合気拳体ぬくぬく礼で終わる



# 教会の歴史と歩みを後世に伝えたい

## 平教会に記念の石碑を建立(大笠利小教会)

笠利町の平教会(大笠利小教会・松永正男神父)で、教会の歴史を刻んだ石碑が建立され、昨年十二月二十三日(金)その除幕式があった。

長八神父によって一八九八年に始められた。そして一九四七年頃からは村田政茂さん宅でミサがささげられるようになり、一九五四年十二月には現在の教会が建てられた。この教会は米



信仰の証として石碑を建立

国の信者の寄付金のもとになり、集落の信徒や一般の青年たちの奉仕作業という協力を得ての見事に献堂された。建設後五十七年を経過した同教会だが、地域の過疎化と高齢化により信徒の数は減少し、二〇〇八年からは所属の信徒は近くの赤木名教会でのミサに参列し、同教会でミサがささげられるのは年に三回ほど

どになつていくという。今回石碑を建立したのは、先細りとなつていく教会の勢いに将来を心配し

## 歌でクリスマスメッセージ

### 瀬留小教会の信徒たち

昨年十二月十一日(日)龍郷町にあるディスカウントショップ入口でクリスマス・キヤロルが披露された。

この試みを実施したのは瀬留小教会の信徒たちと秋名集落からの一般の小学生や大人たちで、総勢四十人が集まり、岡山先生の指導で練習を重ね、この日のお披露目となった。

クリスマスソングを披露。集まった人たちは子どもたちの天使のような澄みきった歌声に拍手喝采。またギ

## 心温まる成人式

### 希望の星学園

知的障害児施設「希望の星学園」(田下哲朗施設長)で、一月十三日(金)成人式が挙行された。

この日成人式を迎えたのは



制限のこともあって、韓国での司祭職への道が閉ざされていただけに、長年求め続けてきた司祭職が現実味を帯びてきたことに感慨深いものがあったに違いない。

司祭を敬う心が日本以上に強い風土にあって、家族の皆さんにとっても喜びひとしおだったに違いないということは、五十人も来て下さったことでも分かる。

「来年の司祭叙階式には是非行きませう」という姪御さんをはじめ家族の皆さんをどうお迎えできるか、早くも気持ち引き締まる思いだ。しかし、叙階式巡礼参加者が、徳之島、奄美、鹿児島と全教会に及んだことでは、みなんでお迎えできる体制がすでにでき上がっているのは嬉しい。韓国教会の熱い信仰と出あえた恵みの巡礼に感謝。



は高等部を卒業し、その後二年余りを希望の星学園と同学園に隣接する多機能型事業所「星窪きらり」を利用してきた九人。

(報告・津村文和)

## 2月の会と催し

- 2日(木) 主の奉獻
- 4日(土) 定例司祭集会(司祭大会終わる)・奄美市
- 5日(日) ボツファイ神父命日(一九八八年)
- 11日(土) 年間第五主日
- 11日(土) 世界病者の日
- 11日(土) 教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八四年二月十一日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡『サルヴィフィチ・ドローリス』苦しみのキリスト教的意味』を發表し、翌年二月十一日には教皇庁医療使徒評議會を開設しました。そして一九九三年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが發表されています。

病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者だけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的養成的養成、病者や苦しんでいる人への宗教的助けなども重要な課題です。

- 12日(日) 年間第六主日
- 13日(月) ハンマ神父命日(ヨルダン)
- 14日(火) 出口市太郎神父命日(一九五八年)
- 15日(水) 中野裕明神父の信仰養成講座・教区本部・10時と19時
- 19日(日) 年間第七主日
- 20日(月) 助祭叙階式・ザビエル教会・14時
- 20日(月) 奄美の宣教司牧を考へる会
- 20日(月) ホリステイツク黙想会「預言者サムエルと癒し」・ザビエル教会集会室・10時〜12時・参加費五百円
- 21日(火) 奄美大島司祭例会
- 21日(火) ホリステイツクスピリチュアル講座「預言者サムエルと癒し」・18時30分〜20時30分・ザビエル教会集会室・参加費五百円
- 22日(水) 灰の水曜日(大斎・小斎)
- 22日(水) 四旬節愛の献金(四旬節中)
- 26日(日) 四旬節第一主日
- 27日(月) 東條一浩神父命日(二〇〇一年)

## 宣教学校勉強会へのお誘い

この勉強会では寝占教之神父(教区本部)から約一時間「カトリックの教え」を学んだ後、ワールドユースデーや韓国での助祭叙階式などの報告を受けたり、新しい信者さんや求道者への対応などについて分かち合っています。興味のある方はどなたでもおいでください。毎月第二土曜日午後一時半から教区本部で開催しております。

## 司教執務室だより

はい、私はここに...

「ネー、ヨギ アラッスムニダーッ!」(ハイ、私はここにいます!)という意味の韓国語。一月十日(火)午後二時開式のインチョン教区叙階式。約一万の信者で埋まったブジョン(富川)市の巨大な体育館に助祭候補者十五人の力強い返事が次々とこだました。続いて司祭候補者十五人も。大きな返事に驚いたが、スツと立ち上がり、つかつかと祭壇前に進む姿は、まさにキリストの兵士としての心意気に満ちていた。全員が兵役体験者だけに、緊張の中にもきびきびと行動しながら実戦配備につく兵士の姿と重なり、思わず胸が熱くなった。もちろん、その中

には我々がアントニオ・チョン神学生とドミニコ・ソン神学生もいたのは言うまでもない。感動したもう一つの理由は、神学一年の夏休み前に行われた着衣式となる剃髪式を思い出しただけ。新しい黒のスタータンを両手で携えて祭壇前に立ったのは五人だったか。「司祭を志す者は一歩前に出なさい」との呼びかけに「アドウ スム!」(私にはここにいます!!ハイ!)と答えて一歩踏み出したときほど心が震えたことはなかった。それは、私にとつて取り消すことのできない神への宣誓に等しかったからだ。四年後の司祭叙階式でも同じ返事を求められたが、それは前回の更新に過ぎなかった。

あの十五人もきつと同じ胸の高鳴りを覚えていたに違いない。とくに鹿児島教区の二人にとつては、年齢

### 創立二百五十年になります

ポルティエの御撰理修道女会阿久根修道院一同


ポルティエの御撰理修道女会はフランス人司祭ヨハネ・マルチノモエによって設立されました。神父は一七九〇年フランスのクツテンで生まれ、一七五四年三月に司祭に叙階され、一七九三年に帰天しています。しかし一七五四年十一月に教皇ピオ十二世から福者に上げられています。

モエ神父は田舎の貧乏な子どもたちが学校へ行けないことを知ると、深く憐れみ、その子どもたちのために、村に子どもたちを教育ができる少女たちを遣わすことを計画しました。一七六二年一月の寒い朝、モエ神父と友人のヨーバン神父がビージの村に入り、ト・レコントという少女が一緒でした。三人はビージ教会のベルニオン神父に出迎えられ、聖霊に祈りをささげた後でサインウベートという小さな村に入り、た。ビージの村から四キロほど離れた貧しい村です。マギョリットは村の子どもたちを教育するために来たのですが、村の人々は非常

### ザビエル書院の窓

聖ファウステイナの日記  
「わたしの霊魂における神のいつくしみ」

日本語翻訳版発売



定価 5,040 円  
(上製本 A5 サイズ 782 頁)  
聖母の騎士社

※ご注文承り中

「頂きます」と言いました。私たちの御撰理修道女会はこうしてこの豚舎から生まれました。そして二百五十年を経て今日に至っています。あの豚舎に蒔かれた小さな種は大きな木になり「空の鳥が来て枝に巣を作っています。マギョリットは御撰理修道女会の最初のシスターで、その後彼女を慕い多くの人がシスターになりました。今では四つの大陸(アジア、ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア)にまで広がっており、二十四カ国で四千人のシスターが働いています。

### みことばシリーズ

### 賑わいが懐かしい教会学校

終身助祭 石神 秀人

昔のことですが、私がまだ小学校の四年生の頃は教会の土曜学校の生徒はほんとうに多かったのです。今から約四十年近く前の話です。それも全員未婚者です。当時、入来教会でも八十人近くの子供たちが英語と聖書の勉強に来ていました。

来教会ができたのは私が小学校三年生の頃です。「英語の勉強を無料で教えてくれるんだって」ということと、「近くの公立高校の英語の先生が来て教えてくれる」ということで大評判。教会学校の皆勤賞もあったり、遠足があったりして、子供たちが引きつけていたような気がします。今を思うとすごいなと感じます。洗礼までいかなくともある意味、キリストのことを少しでも伝えられただけでも成功です。今もあの当時の活気をまだ体で覚えているんです。そのことを考えるとそこから時として悩んでいるような気がします。これも神様の力でしょうか。教会学校にいつてよかったです。この感動を子供たちにも引き継いでほしいのです。

賜物は「神様に信頼して清貧、従順、愛の心で文化と信仰の貧しい人々のためにどこへでも福音を宣べ伝えること」です。

二〇一二年一月十四日から二百五十周年のお祝いのための聖なる一年が始まりました。現在、日本では阿久根小教区で私たちの会が働いています。メンバーは全員ベトナム人で、総勢三人です。ポルティエの御撰理修道女会が今後日本でますます発展しますように、私たちのためにもお祈りを願います。

### ご案内

▼キツペス神父の黙想会  
著書に「スピリチュアルな痛み」「人生の旅の目的地」を持つレデンプトール会のW・キツペス神父がマリア山荘で黙想会を開くようになつて約十五年、今年も三月、七月、十二月に同黙想会を予定している。

日程は次の通り。①3月17日(土)18日(日)19日(月)20日(火)21日(水)22日(木)23日(金)24日(土)25日(日)26日(月)27日(火)28日(水)29日(木)30日(金)31日(土)

会場はマリア山荘(霧島市溝辺町麓三六一一四)で、時間は土曜日10時から日曜日の16時まで。

申込み・連絡先は次の通り。〒八三〇一〇〇六一 久留米市津福今町四五九一〇(電話〇九四二一三一四八三五)メールでのご連絡には contact@jesus-online.jp

教会学校についても考える機会が必要なのではないでしょうか。

### イエズス会立山修道院から黙想会のご案内

テーマ：みことばから自分の生き方を見つけよう。友だちといっしょに。

日時：2月18日(土)11時～19日(日)16時

予定：18日/受付・集合(11時)～ミサ～昼食～お話(日)～夕食～教会の祈り・面会  
19日/朝の祈り～朝食～お話(火)～ミサ～昼食(会話)～ミニ巡礼(大山教会\*9割がカトリック信徒の町大山へ)～解散(JR駅前・16時)

指導：ディアス師(イエズス会) 対象：どなたでも

参加費：7,000円(1泊2日・4食+巡礼交通費を含む)\*前泊又は日曜延泊の方は費用追加

場所：イエズス会立山修道院「長崎黙想の家」長崎市立山5-8-30

申込み：イエズス会立山修道院  
Sr. 中島 TEL 095 (821) 4577 梶 i821) 4585

### マリア山荘黙想会のご案内

<p>※召命黙想会</p> <p>3月24日(土)15時～25日(日)16時</p> <p>助言者：修道女及び司祭</p> <p>参加費：6,000円</p> <p>連絡先：マリア山荘 TEL 0995 (58) 2994</p>	<p>※聖ファウステイナの「神のいつくしみの祈り」黙想とノベナ9日間の祈り</p> <p>3月17日(土)15時～18日(日)16時</p> <p>コーディネーター：坂本 進 西園留美子</p> <p>参加費：6,000円</p> <p>連絡先：マリア山荘 TEL 0995 (58) 2994 西園 TEL 090-9562-0338</p>
---	--

### +KABAYAN SEKSIYON+ "ANG DIYOS AMANG MAKAPANGYARIHAN" KALALAGAYAN

Sinimulan na natin ang pagpapalalim ng ating buhay-pananampalataya, kung sino ang dapat natin sambahin. Kaya may katanungan na... Ngunit sino itong Diyos na siyang sentro sa buhay? Paano Siya pinaglingkuran at sinasamba? Ang ilang nag-aabuloy sa pagpapagawa ng simbahan o kapilya pagkatapos ay bihira nang makita sa mga gawaing pagsamba ng simbahan at mga gawain. Ang lumang kasabihang "Mga Kristiyano sa Kasal, Binyag, Libing" ay di lamang tumutukoy sa mga di-nagsisimbang mananampalataya. Ipinahihiwatig din nito ang pangkaraniwang pangyayari na marami sa ating mga Pilipino ang hindi natuturuan nang maayos tungkol sa kanilang Pananampalatayang Kristiyano. Marami ang nagrereklamong, "Hindi ko kailanman naunawaan ang aming ginagawa." Para sa mga Kristiyanong ito, sino ba talaga ang Diyos na ito na madalas na siya'y waring ipinagwawalang-bahala.

Para sa mga Pilipinong Katoliko, ang Kredo ay ipinalalagay na opisyal na pinagmumulan ng katotohanan para liwanagin kung Sino ang Diyos, at kung Paano tayo nakaugnay sa Kanya. Ngunit madal-as na kakaiba ang totoong nagaganap. Kapag tinuturuan ang mga Pilipino sa tunay na Kristiyanong larawan ng Diyos at ng pagsamba sa kanya, malimit silang namamangha na matuklasang napakarami sa kanilang kulturang pagpapahalaga bilang Pilipino ang nasa pangunahing Kristiyanong katekesis. Halimbawa, ang paggalang ng mga bata at ang "utang na loob" sa kanilang mga magulang ay larawan ng ating makataong pagpapasalamat sa ating Amang nasa Langit. Ang "bahala na", na inuunawa sa tamang paraan, ay nag-uugnay sa mga Pilipino sa kagandahang-loob ng Diyos. Ang "malasakit" ay maayos na naglalarawan ng walang-sawang pangangalaga ng Diyos sa tao na Kanyang nilikha. Kahit ang ating pinahalalagahang "kagandahang-loob" ay nagpapahiwatig ng ganap na kagandahang-loob ng Diyos na lagging naglalayong mai-labas ang pinakamabuti sa atin. Ang panimulang salita ng Kredo ay naglalahad sa atin ng tatlong pagsasalarawan ng Diyos. Ang Diyos ay Ama, ang Makapangyarihan at ang Manlilikha ng langit at lupa. Sa kabanatang ito, pinagtutuunan natin ng pansin ang dalawang nauna, Ama at Makapangyarihan, at ilalaan ang detalyadong pagtalakay sa "Manlilikha" sa Kabanata 7. Ngunit tatlong bagay muna ang dapat nating liwanagin.

Dahil sa kakulangan ng pagkaunawa sa buhay pananampalataya, kung minsan ang takbo ng ating buhay ay hindi maganda, kadalasan ay masalimuot. Marami ang nawawala sa tamang pananampalataya, dahil sa hindi nakikilala ang tunay na Diyos Ama at Makapangyarihan. Sa tulong ng Inang Simbahan ay unti-unting ipinapaliwang at ipinapaunawa sa mga tao kung sino ang dapat samabahin ng tunay... Ang Diyos Ama, na ama din ni Jesus, na ama din nating lahat na nanampalataya.

**Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)**